

2023年10月・増大号(67巻10号)

肝疾患 臨床検査でどう迫る？

●定価：5,500円(本体5,000円+税10%)

肝疾患の診断はもちろん、治療の選択、予後予測などにおいて、臨床検査は大きな役割を果たします。

本号では、肝疾患の鑑別診断、病型分類、予後予測、治療の選択・効果判定などに用いられる検体検査・生理機能検査について、最新の知識を解説します。さらに、肝疾患における臨床検査の現状、今後の課題や展望を含め、エキスパートの知見を集約、総合的に学べる1冊です。

CONTENTS

序章 総論

肝臓とは？ 肝臓の構造と働き
肝臓に起こる主な病気

1章 肝関連検査の見方

肝臓の炎症にかかわる検査
肝臓の線維化にかかわる検査 など

2章 急性の肝疾患

急激な肝酵素の上昇がみられた際の
鑑別と検査オーダーの流れ
急な肝酵素上昇がみられた際の
超音波検査の役割 など

3章 慢性の肝疾患

病理検体を用いた肝線維化評価
発癌高リスク群の設定 など

4章 肝腫瘍

肝細胞癌原因の変遷
肝癌の病理診断 など

*内容については変更になる可能性があります。